

新年度のごあいさつ

令和8年度を迎え、新しく就任しました降旗町会連合会長、杉山公民館長、退任しました大槻前公民館長からごあいさつをいただきました。



町会連合会会長
降旗 一郎

この度「笹賀地区連合町会長」を賜る事となりました。笹賀地区は14町会からなり、2700余りの世帯数で構成されております。それぞれの町会の世帯数に違いがある事は勿論、運営方法や活動の仕方なども違いがあります。多くの町会ではコロナ禍以降、高齢化や世情の変化なども相まって、後継者不足など様々な問題を抱えて苦慮しているとの認識しております。

その中でそれぞれの町会独自の運営が円滑に行っているよう、連合町会長として協力しあっていく所存であります。

また、特に昨今のSNSの普及に伴うデジタル化による簡素化にも考慮し、町会に還元出来るよう対応してまいりたいと思っておりますので、併せて宜しくお願いいたします。



公民館長
杉山 佐俊

これまで、連合町会長、笹賀地区空港対策委員長をお受けしていたので、まさか公民館長の立場をいただくことになると思ってもいけません。しかし、前任の大槻館長からの度重なる要請があり、微力ではありますがお受けすることとなりました。

私自身もいろいろな公民館行事に参加してきました。古くは笹賀地区市民運動会のリレーで総合優勝しました。私の席の後ろに当時の優勝旗があり、総合優勝リレーのリボンが付いています。ソフトバレーボールで市民大会にも参加しました。他にも、ウォーキング大会、球技大会、グランドゴルフ、文化祭卓球大会、大槻館長が企画された「音楽の風景」にも二度参加しました。どの行事も楽しい思い出になっています。

ところが、今年からは立場が逆転しました。参加から企画の側になりました。たくさん楽しませていただいたのは、行事を支えてくださった大勢の方々のお力によるものでした。

私に、このように積み重ねられてきた歴史を引き継いでいられるか不安ですが、大勢の方に参加していただき、笹賀に住む皆様の輪が広がるよう地域づくりの一助として取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



笹賀の世帯数・人口
世帯数 4,838 世帯
人口 10,633 人
男 5,371 人
女 5,262 人
(令和8.5.1 現在)

退任のごあいさつ

前公民館長 大槻 研一

在任中を振り返りますと、市のバスを利用した十数回の事業は一度も雨に祟られることがなく、常連の参加者からは「晴れ男館長」の異名をいただきました。私が晴れ男なのではなく、事業に参加いただいた皆さんの思いが通じただけなのですが、まあ、そういうことになっておきますか。

笹賀の皆さんに音楽の楽しさを味わっていただきたく、館長就任と同時に始めた「音楽の風景」は第8回まで開催できました。なかでも自分で選曲し解説したクラシック編と、世界中の子どもたちが、戦争を知らない子どもたちになれますように！と願いを込めた『ぼこあぼこ』と『ケ・セラ』の演奏会は、参加された方からお褒めの言葉を多くいただき、音楽の楽しさをお届けできたものと思っております。

もちろん、課題もたくさんあります。私が一番の課題と考えているのは、青少年と公民館の関わりです。折しも中学校の部活(クラブ活動)の地域移行が最終盤を迎えます。若者の居場所づくりについて行政とも連携して取り組む必要があると思えます。

最後に、この二年間見続けた笹賀の公民館・センター・福祉ひろばで働く現役の皆さんの働きぶりは、忘れていた公僕という言葉を思い出させるもので、一緒の空間で気持ちよく働けたことに感謝申し上げます。住民の皆様、職員の皆様からいただいたご支援に心から御礼を申し上げます。退任のご挨拶といたします。

令和8年度町会長・公民館役員紹介

◎会長・委員長◎副会長・副委員長敬称略

◆町会長

- ◎古林 利明 (今)
- 丸山 栄一 (上小俣)
- 中野 悟 (巾下)
- 上野 哲夫 (東耕地)
- 大丸 隆弘 (下小俣)
- 塩崎 明彦 (神戸新田)
- 三澤 清一 (神戸)
- 横山 雄一 (菅野)
- 赤羽 尚雄 (上子)
- 百瀬 由和 (中子)
- 上杉 壽和 (下子)
- ◎倉科 光夫 (二美町1)
- 玉井 満 (二美町2)
- ◎降旗 一郎 (空港東)

◆公民館運営委員

- ◎降旗 一郎 (町会連合会長)
- ◎草間 淑雄 (町公民館長)
- ◎倉科 光夫 (町会連合副会長)
- ◎古林 利明 (町会連合副会長)
- 篠田 稔 (町公民館事務)
- 矢島 実 (町内公民館長)
- 岩垂 真一 ()
- 上野 誠司 ()
- 青木 政美 ()
- 水野 英幸 ()
- 山田 賢司 ()
- 三村 進 ()
- 中村 学 ()
- 御子柴俊哉 ()
- ◎曾根原大輔 ()
- ◎繁村 満雄 ()
- ◎代田 允宏 ()
- ◎北條 悟 ()
- ◎山越 正幸 ()
- ◎小松トシ江 ()
- ◎腰原 理恵 ()
- ◎樋口 尚美 ()
- ◎篠田 稔 ()

◆文化委員

- 北原 透 (子と文芸会会長)
- 上野 久美 (露草会会長)
- 矢島 美咲 (露草会副会長)
- 百瀬 修太郎 (子小俣会会長)
- ◎岩垂 真一 (上小俣)
- ◎上野 誠司 (巾下)
- ◎青木 政美 (東耕地)
- ◎水野 英幸 (下小俣)
- ◎山田 賢司 (神戸新田)
- ◎三村 進 (神戸)
- ◎中村 学 (菅野)
- ◎御子柴俊哉 (上子)
- ◎草間 淑雄 (中子)
- ◎西浦 彰 (下子)
- ◎腰原 理恵 (二美町1)
- ◎甘利奈緒美 (二美町2)
- ◎武本 宗樹 (空港東)

◆体育委員

- 中澤剛志也 (今)
- 小林 和義 (上小俣)
- ◎上野 誠司 (巾下)
- ◎岡本 正浩 (東耕地)
- ◎高山 英明 (下小俣)
- ◎山田康二郎 (神戸新田)
- ◎矢ヶ崎吉秀 (神戸)
- ◎塩川 浩一 (菅野)
- ◎赤羽俊太郎 (上子)
- ◎村上 寿夫 (中子)
- ◎田中さや香 (下子)
- ◎齋藤 利枝 (二美町1)
- ◎甘利奈緒美 (二美町2)
- ◎羽山 守 (空港東)
- ◎山口 敏夫 (専門委員)
- ◎藤松寛美子 (専門委員)

◆館報編集委員

- ◎船坂みゆき (今)
- ◎岩垂まど香 (上小俣)
- ◎大槻美登里 (東耕地)
- ◎大丸 由美 (下小俣)
- ◎窪田 守 (神戸)
- ◎山口 敏夫 (下子)
- ◎杉山 博章 (下子)
- ◎霜沢 紀子 (空港東)

◆笹賀公民館職員

- ◎杉山 佐俊 (館長)
- ◎藤牧 啓吾 (センター長)
- ◎矢口 童也 (主事)



大人の社会見学〜安曇野の文化と食を学ぶ〜

3月13日、大人の社会見学が行われ、65名の参加者が2台のバスに分乗し、安曇野へ出発しました。

―開運堂あづみの菓遊庭―

建物の前には井戸があり、その井戸水を使用してお菓子を製造しています。自由に汲んで良いということで、たくさんの方が水汲みに訪れていました。ひとくち飲んでみましたが、まろやかな美味しい水でした。

工場では饅頭やカステラを作っているところを見学し、売店では、桜餅や先程作っていた饅頭を購入することができました。



―ちひろ美術館―

疎開していたことから、松本市にも縁のある岩崎ちひろさんの美術館です。代表的な子ども絵の他に、風景画もたくさん見ることができました。



参加者は、昔の教室を模した展示室で小さな椅子に座ってみたり、絵本を眺めたりして童心に帰りました。外には黒柳徹子さん著書の「窓際のトットちゃん」に出てくる電車の教室もありました。

―大雪溪酒造―

大きな精米機械の前に、酒造りの工程の説明を受けました。大吟醸用の酒米は3日かけて精米するそうです。大雪溪酒造で生産された酒の9割は地元で消費され、8%は県外、その他が輸出ということになります。県外ではなかなか味わえない、地元で愛されているお酒だと感じながら試飲し、参加者それぞれ

それぞれに好みのお酒を探しました。身近な観光地でもある安曇野ですが、公民館活動でじっくりと見学することができました。参加者はほろ酔い気分できらびやかに楽しかったと言いつつ、帰宅の途につきました。



大人の社会見学〜軽井沢で芸術文化を学ぶ〜

4月16日(木)晴天に恵まれ、参加者40名のみなさんで出発しました。

2025年7月にオープンした黒柳徹子ミュージアムを楽しみにしていると、話しながら向かいました。

黒柳徹子さんといえば、現在でもテレビなどで活躍されていますが、このミュージアムは、彼女の足跡につながる約300点のコレクションを見ることが出来ます。なかでも目を引いたのは、テレビの中でも着用していたであろう



多数展示されているドレスや着物で、華やかな芸能界の一面をみる事ができました。

ほかにもグラスペーパーウェイトというガラスの透明な文鎮が、中央に多数飾られていて、模様がとても綺麗でした。伝統工芸品、絵画など様々な展示品は心身共に豊かにさせてくれる様でした。

黒柳さんは平和な時だからこそ美しい物を共有したいと願いを込めて設立したと話しています。参加者は、これからも展示品を増やしたり、入れ替えたりしていくようなので、またゆっくり見に来たいと話していました。

その後軽井沢ショッピングプラザで各自昼食をとり、買い物もしました。丁度満開の桜の木があり写真を撮っていた方がいました。

最後は、軽井沢千住博美術館を見学しました。

千住博さんは世界的に活躍されている日本画家で、ウォーターカラーを題材にした巨大な作品が彼の代名詞です。

中に入ると、代表作である山水画が圧倒的な迫力で迫ってくるようでした。滝・崖・森など自然な物に水が加わり違う世界が作られていました。

また、建物が斜面を利用してあるため、作品が溶け込んでいるように感じました。参加者は観覧してひととき現実を忘れさせてくれたと話していました。

時間に限りがあり、ゆっくりとはいかなかったバス旅ですが、車内では自己紹介をしておしゃべりにも花が咲き、和やかな一日を送ることができたと思います。

